

フェアトレードシティくまもと推進委員会

若者たちと共に アジア初のフェアトレードシティ熊本市 市民運動の実践

【取組み内容】

2011年、熊本市はアジア初・世界で1000番目のフェアトレードシティに認定。
 2014年欧州以外で初のフェアトレードタウン国際会議in熊本を誘致開催(21カ国、300名)、主に若者が立候補により実行委員長を務め継続した取組みにより、
 2015年フェアトレード認知度が日本一に。2016年熊本地震で店舗兼事務局が全壊、
 2018年火災で全焼など度重なる災害を乗り越え、2021年フェアトレードシティ熊本市10周年記念行事の中で、市長と市民が「フェアトレードの先進都市になる」と熊本宣言。SDGs未来都市に認定され、エシカル消費を実践する市民が住むまちとして、フェアトレードタウン運動を弛まず実践中！



2021年フェアトレードシティ認定10周年「フェアトレード国際フォーラムin熊本」にて



21
か国、
300名
欧州以外で初開催

2014年 第8回フェアトレードタウン国際会議in熊本

評価項目ごとの取組みの特徴・ポイント	
普遍性	アジア・日本のロールモデルとして、国内外でフェアトレード運動を展開している。3年毎の認定更新時に、目標を立て取組を発展させている。
包摂性	フェアトレードの普及と共に地域の課題を解決するため、地元企業や福祉施設などとコラボした商品開発、イベントなどを実施している。
協働性	フェアトレードタウン認定基準達成には、市民、企業、行政、学校、メディアなど様々な組織や団体と連携が欠かせない。常に協働している。
統合性	フェアトレードはSDGs17すべての目標に関連する。経済・社会・環境からなる国際フェアトレード基準が定められている。
透明性	毎月複数の講演会、授業、勉強会の実施、SNS（インスタ、FB、公式LINE）での発信で、活動を広く伝え、問い合わせを受け付けている。

貢献するSDGsのゴール